

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2694100054		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家山科小野(ユニット1)		
所在地	京都市山科区勸修寺御所内町122		
自己評価作成日	平成24年3月14日	評価結果市町村受理日	平成24年7月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2694100054&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2694100054&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年4月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様と共に過ごす中で、安心・安全で楽しいと思って頂けるよう努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該事業所は、利用者がその人らしく暮らせる事を大切にして、一人ひとりが能力を生かせる場面作りに努め、食事の準備や片づけ、掃除や洗濯など役割を持ち活躍出来る事で、自信に繋げるように支援しています。又、家族からも以前の暮らしや好みなどの情報を得ながら詳細な介護計画を立て、自立に向けてのケアと結び付ける事ができるよう取り組んでいます。入居時車椅子で来られた人が日々の関わりや働きかけで、杖で歩けるようになった方もいます。協力医や訪問看護との連携が良く、終末期の支援にも取り組んでいます。職員で対応方法の話し合いを繰り返したり、協力医の臨時往診や看護師の毎日の訪問を受けながら、開設後1年足らずの間に2名の利用者の看取りを経験し、一致団結して取り組む姿勢が職員に生まれ、より良いケアに活かされています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した事業所となれるよう、努めています。	法人の理念「現場第1主義」「ひとを大事にし人を育てる」に沿って、利用者の尊厳を大切に、その人らしい生活をしていく事を念頭に事業所理念を作っていくと考えられています。職員皆でどのような言葉にするのかを話し合い作成していく事を課題としています。	現在課題とされている理念の作成を職員皆で取り組まれ、事業所が目指す方向を一つにし、実践につなげられることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントには積極的に参加し交流を重ね、地域の一員として受け入れて頂けるよう努めています。	町内会に入り町内会長から秋祭りや、地域の防災訓練の情報を得て参加に繋がっています。向かいのコンビニに利用者や買い物に行き、挨拶や言葉を交わす関係が作れるように努めています。町内の方々とは顔を合わせると声を掛け合う関係ができています。今後幼稚園児等の子ども達との交流も行いたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の行事に参加し地域の方と接することで、認知症の人の理解を深めるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議構成員の方々との話から、ご意見・助言・ご指導頂き、サービスの向上に努めています。	会議は、町内会長や地域包括支援センター職員、利用者、家族、協力医療機関職員等をメンバーとし、活動内容の報告や意見交換を行っています。玄関の施錠についての意見があり、職員皆で検討して対応しケアに繋げるなど運営に反映できるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の研修・連絡会には積極的に参加し、必要に応じて連絡・訪問している。	区の担当課とは訪問や電話で相談する等の関係にあります。又、毎月区が主催する事業所連絡会に参加し、情報提供や意見交換をしたり、行政が開催する研修にも参加をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全職員が、具体的な行為の把握・理解を深めるようにしています。ユニット出入り口は安全確保のため施錠しています。	社内研修で「身体拘束をしないケア」について学び、事業所内で伝達研修を行い、職員への周知を図っています。毎朝のミーティング時に身体拘束に繋がる言動について振り返りをしています。防犯の為、ユニット毎の出入り口の施錠をし、利用者が出ていきたい様子があれば、一緒に付き添って出掛けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内外の研修に参加し、虐待について学び理解を深めると共に、防止に努めています。		

グループホーム たのしい家山科小野(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ機会を持ち、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、運営方針・金銭面等について理解及び納得して頂けるよう、十分に説明するよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・要望を、申し送りノート・会議(ご意見によっては本社に連絡)にて共有し、施設の運営に反映させています。	意見箱を設置し、面会時には声かけをし、意見を聞いて「申し送りノート」に記入し、職員間で情報を共有しています。アルバムを作り面会の時に見て貰い、あまり面会に来られない人には電話を掛けて近況報告して意見を聞いています。個々の利用者の生活や散歩の頻度等の意見があり、実践に繋げています。今後、アンケートも行っていきたいと考えられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議・合同会議等にて、意見等課題の共有をしています。	ユニット会議や毎日のミーティングの後のカンファレンスの時間に、職員は日頃のケアでの気づきや提案を出し合っています。管理者は、定期的及び状況に合わせて個人面談を行い、職員と常に話し合い、率直な意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課があり、職員の勤務状況を把握し、給与に反映しています。またやりがいをもち、楽しく仕事ができる環境作りを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には本社において3日間の研修を受けたのち、業務に従事しています。また社内では、定期的に研修が実施されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域会議・連絡会等に、積極的に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの情報をスタッフ間で共有し、安心して頂けるよう積極的にコミュニケーションを図るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に、現況・不安なこと・要望を確認し迅速に対応出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状に対しどのようなサービスが必要か話し合い見極め、その時に必要なサービスが受けることが出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・レクリエーション等を通し、馴染みの関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活を通じご本人の要望や意向を確認・把握に努め、ご本人・家族様・職員でカンファレンスを行い、介護計画を作成し実践しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様(親族様)・ご友人の訪問が多く、また入居前に利用していたサービスの職員の訪問もあります。	利用していたデイサービスの職員や古くからの友人が訪ねて来られた時には居心地良く過ぎて貰い、今後も来て貰えるように声かけをしています。面会の少ない家族には、様子を伝えながら来訪へ繋がるよう声をかける事で、面会の頻度が増えてきています。家族の協力を得て墓参りや、自宅に帰るなどの支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活において入居者様同士の関係を把握し、食事席やレクリエーション等の関わり方を配慮しています。		

グループホーム たのしい家山科小野(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合は、ご本人・家族様のフォロー含め相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を把握し、日々の生活の中で発言や行動等観察し、本人本位になるよう検討しています。	利用前の訪問時に利用者家族から生活歴や思いや好みを聞いてフェイスシートに記入しています。入居後はアセスメントを行い利用者の意向や思いを把握出来るように努めています。伝えられない方は、関わりを深めていき、利用者の自己表現を見逃さず、思いや意向を把握出来るように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートから、生活歴・馴染みの暮らし・生活環境等把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・往診・健康管理等を通して、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じご本人・家族様等カンファレンスを行い、意見を反映し介護計画を作成しています。	初回は入居前のアセスメントを基に暫定の介護計画を立て、1ヶ月後に再アセスメントを行い見直しています。モニタリングは毎月、家族の面会時や職員の意見を聞いて行い、3ヶ月毎に医療情報も得ながら家族や利用者も参加をするサービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・伝達ノート・ミーティングにおいて情報の共有に努め、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪看・福祉用具レンタル等、柔軟な対応に取り組んでいます。		

グループホーム たのしい家山科小野(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め入居者様に提案し、提供できるよう支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際医療連携医の説明、月2回内科・精神科の往診、月2回訪問による健康管理があり、24時間体制の電話対応が可能です。	以前からのかかりつけ医の受診が継続出来る事を入居時に家族に説明し、かかりつけ医の受診を続けている人も往診がある協力医の受診を並行して受けています。同法人の訪問看護師が週1回、利用者の健康管理をしています。協力医は緊急時対応や24時間連絡可能な体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良の際は連絡にて訪看に来て頂き、対応の指示をして頂きまた必要に応じて、他医療機関への連携もして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様・病院関係者と共に現状の把握を含め、情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行い、また入居者様の変化に応じて医療連携医・家族様・職員と話し合いを行い、終末期においての方向性を決め共有し、支援に取り組んでいます。	利用時に「看取りの指針」を基に事業所の対応について説明し、終末期の利用者には医師の判断で看護師や医師、家族と話し合いながら支援しています。看取りの経験があり、職員で対応方法の話し合いを繰り返したり、協力医の臨時往診や看護師の毎日の訪問で取り組みました。この経験により、職員同士の声の掛け合いも多くなり、皆で協力する事を学び、現在のケアにも活かされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やカンファレンス等で全職員に定期的に説明し、実践出来るよう指導を重ねています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、消防非難訓練を行っています。	年2回昼夜想定避難訓練を消防署立会いの下に行っています。夜間時は向かいのコンビニと連携をとれるように関係作りを図り、今後は地域の防災訓練に参加していく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の情報を把握し、その方に合った言葉かけや対応に心がけています。	採用時の研修で職員は、接遇及びプライバシーについて学んでいます。親しみのある言葉がけと丁寧な言葉がけは使い分けて、利用者と同じトーンで関わられるように努めています。職員の気になった言動のあった時は直ぐに注意をし、改善できるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望は取り入れ、また自己決定が出来るように選択肢を設け助言を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、入居者様本位の希望にそって支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔保持に努めながら、訪問美容・お化粧品・服装選び等支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の能力をいかしながら、調理・盛り付け・後片付けを、職員と一緒にしています。	毎食、業者が献立を作り材料を納入しています。利用者は、白い割烹着を着ると自分から進んで、調理や片づけを職員と一緒にされる方もいます。行事には利用者の好みを聞き別献立を立て、買い物に行って調理をしています。食事の時間は職員も一緒に食事を食べ利用者と和やかに会話しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に残し、その方に応じた水分・食事等を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア(義歯洗浄)を行い、必要があれば訪問歯科に依頼しています。		

グループホーム たのしい家山科小野(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表確認しながら、その方の排泄パターン・習慣等把握し、失敗やパット等に頼らない排泄の支援を行っています。	個々の排泄パターンを把握したり、トイレに行きたい素振りがあれば「廊下を歩きましょう」や「ちょっとここに寄って行きましょうか」等のプライバシーに配慮した声かけで誘導しています。早目に誘導する事で失敗が少なくなり、布パンツで過ごしている方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服に頼る前に、飲食物の工夫や運動の声掛けに努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低限度の入浴日は設定しているが、希望に応じてその都度入浴して頂けるよう努めています。	入浴は少なくとも週2回は入れるように支援し、希望があれば毎日でも入っています。拒否される場合は、トイレから風呂に誘導したり、声かけを工夫する事で、入浴してもらっています。1対1介助でゆっくりと入り、入浴剤や柚子湯で楽しむ機会を作っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情の確認及び内服薬の把握に努め、副作用等に注意を払わなければならない薬に関し、表を作成常に確認出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・散歩・買い物等、状況に応じた支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けています。また家族様の協力で外出したり、地域の行事に参加しています。	天気の良い日は川沿いの遊歩道に散歩に行ったり、花や野菜の世話や様子を見に庭先に出ています。買い物は車で一緒に出掛け、ドライブでも紅葉狩りに行っています。家族の協力で買い物やドライブに出掛けている方もいます。	



グループホーム たのしい家山科小野(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の希望や力に応じ自己管理し、使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快の感じないよう配色・温度等の配慮をし、また季節感じて頂けるよう四季折々の飾りをしています。	東側に大きな窓があるリビングは、陽の光も良く入り、窓越しに景色や庭の花が良く見え楽しめます。空気清浄機や温度・湿度にも配慮し、食事中はテレビを消して、利用者の好きな音楽を聞く等音量にも気をつけて、過ごしやすよう支援しています。対人関係を配慮しテーブルの配置を工夫し、居心地良く過ごせるようにしています。窓際や廊下にソファを置き、寛げる場所を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは広く、ご自分のスペースを確保出来るよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具・たんす等の使い慣れたものを置くことにより、居心地の良い環境を維持して頂いています。	居室にはクローゼットが備え付けられ、ベッドやカーテンは各自の好みの物を持ってきてもらっています大切な位牌や遺影、家族の写真やぬいぐるみ、人形、長椅子を置いています。カーペットを敷いて布団で寝ている人もおり、自宅と同じ設えにして居心地よく過ごしてもらっています。部屋の前には表札代わりに利用者の写真を飾り自分の部屋を認識し易くしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全にかつ簡単で分かりやすく使用出来るよう配慮しています。		